

第1問 (20点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目の中から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 市原商事は柏物産を吸収合併し、同社の株主に対して自社の株式（資本金組入額¥300,000、残りは資本準備金とする。）を交付した。合併直前の柏物産の資産・負債の公正な価値は諸資産¥1,000,000、諸負債¥600,000である。なお、柏物産の取得原価は市原商事株式の時価を用いるものとし、同株式の時価（公正な価値）は¥380,000である。

ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. のれん エ. 負ののれん発生益 オ. 諸資産 カ. 諸負債

2. 当社は、国から受け取っていた国庫補助金¥46,000に自己資金¥138,000を加えて備品¥184,000を購入し、代金は当座預金口座から支払った。なお、同時にこの備品については補助金に相当する額の圧縮記帳（直接減額方式）を行った。

ア. 国庫補助金受贈益 イ. 備品 ウ. 現金 エ. 固定資産圧縮損 オ. 当座預金 カ. 普通預金

3. 滋賀物販株式会社は、自社所有の社屋および倉庫の定期修繕とともに改修工事を行い、工事代金¥4,000,000のうち半額は小切手を振り出して支払い、残りは月末に支払うこととした。この工事代金のうち¥3,000,000分は耐用年数を延長させる効果のある支出であり、資本的支出として資産価値を増加させる処理を行う。残額は毎期通常行われる定期修繕の範囲内の支出であるが、前期末において¥900,000を修繕引当金として計上している。

ア. 建物 イ. 修繕費 ウ. 修繕引当金 エ. 現金 オ. 当座預金 カ. 未払金

4. 熊本物産株式会社は、兵庫支店、東京支店、北海道支店の3つの支店を有しており、本店集中計算制度により会計処理を行っている。兵庫支店が北海道支店の買掛金¥1,120,000を他社振出の小切手で支払った取引について、北海道支店で行われる仕訳を示しなさい。

ア. 本店 イ. 現金 ウ. 兵庫支店 エ. 北海道支店 オ. 買掛金 カ. 東京支店

5. ×2年7月1日アメリカの仕入先より、掛け代金の決済日を×2年9月30日として商品19,500ドルを購入していたが、本日（×2年8月1日）、取引銀行との間で、買掛金の支払いに備え19,500ドルを1ドル¥105で購入する為替予約を結んだ。×2年7月1日の為替相場による円換算額と、予約した為替相場による円換算額との差額は、振当処理を適用し、すべて当期の為替差損益として処理する。なお、×2年7月1日の為替相場は1ドル¥100、本日の為替相場は1ドル¥107であった。

ア. 仕入 イ. 買掛金 ウ. 前払金 エ. 未払費用 オ. 損益 カ. 為替差損益

## 第2問 (20点)

次の神楽坂商事(株)の資料にもとづき、以下の設問に答えなさい。当社が保有および売買している有価証券は次の資料に示したもののみである。

### 条 件

- (1) 当社の会計期間は3月末日を決算日とする1年間である。
- (2) その他有価証券の時価評価は全部純資産直入法を採用しており、法定実効税率25%とする税効果会計を適用する。
- (3) 第×1期期末に保有する有価証券の内容は次のとおりである。

	発行済株式総数	分 類	取得原価	期末時価	所有株数
X社株式	30,000株	その他有価証券	@¥2,340	@¥2,640	1,000株
Y社株式	6,000株	関連会社株式	@¥5,760	@¥6,000	2,000株

### 第×2期期中取引 (×2年4月1日から×3年3月31日までの1年間)

- (1) X社株式3,000株を@¥2,490にて追加購入した。購入代価と購入手数料¥90,000の合計は後日支払うこととした。
- (2) Y社株式1,500株を@¥6,810にて追加購入した。購入代価と購入手数料¥135,000の合計は後日支払うこととした。
- (3) 満期保有の目的でZ社社債(額面¥1,800,000、償還日:×5年6月30日、利率:年3.65%、利払日:毎年6月30日と12月31日の年2回)を、×2年9月1日に額面@¥100あたり@¥96.60(裸相場)で購入し、前利払日の翌日から売買日当日までの端数利息を含む代金を普通預金口座より支払った。端数利息は1年を365日として日割計算する。
- (4) X社株式2,000株を@¥2,700で売却し、代金は後日受け取ることとした。
- (5) 12月31日にZ社社債の半年分の利息が普通預金口座へ振り込まれた。

### 第×2期期末の資料

期末の時価は次のとおりである。

X社株式: @¥2,550    Y社株式: @¥6,060    Z社社債: @¥97.22

なお、Z社社債の取得差額は金利調整差額と認められるため償却原価法(定額法)を適用する。

### 設 問

- 問1 第×1期期末の貸借対照表における「その他有価証券評価差額金」の金額を答えなさい。なお、評価益相当と評価損相当のいずれかに○をつけて答えること。
- 問2 第×2期期末の損益計算書におけるその他有価証券の売却損益の金額を答えなさい。なお、売却益相当と売却損相当のいずれかに○をつけて答えること。
- 問3 第×2期期末の損益計算書における「有価証券利息」の金額を答えなさい。なお、借方残高と貸方残高のいずれかに○をつけて答えること。
- 問4 第×2期期末の貸借対照表における「投資有価証券」および「関係会社株式」の金額を答えなさい。
- 問5 第×2期期末において神楽坂商事(株)が連結財務諸表を作成した場合、そこに記載される「投資有価証券」および「関係会社株式」の金額を答えなさい。連結子会社はいずれも有価証券を所有していないものとする。

### 第3問 (20点)

次の資料〔Ⅰ〕および〔Ⅱ〕にもとづいて、精算表を完成しなさい。会計期間は×20年4月1日から×21年3月31日までとする。

〔Ⅰ〕決算に際して、以下の事項が判明した。これらの事項にかかわる修正は、決算整理に先立って修正記入欄で行われるものとする。

1. 建設仮勘定¥400,000は、東京建設に建設を依頼していた建物（請負代金¥500,000）に対するものである。同建物は当期10月1日に完成し引き渡しを受け、同日より使用しており、請負代金と建設仮勘定との差額は小切手を振り出して支払っていたが、未処理であった。
2. 当座預金口座の残高について銀行に問い合わせたところ、帳簿残高との不一致が明らかとなった。差異の原因を調べたところ、以下の事実が判明した。
  - a. 銀行の営業時間外の入金が¥20,000あった。
  - b. 仕入代金として振り出していた小切手¥50,000が銀行に未呈示であった。
  - c. 受取家賃¥18,000の当座預金口座への振り込みが当社に未達であった。
  - d. 買掛金¥40,000の決済のために作成した小切手が未渡しであったが、当社ではすでに当座預金の減少として記帳されていた。
  - e. かねて預け入れしていた他人振出小切手¥20,000が未取立てであった。

〔Ⅱ〕決算整理事項は次のとおりである。

1. 売上債権（受取手形、電子記録債権、売掛金、クレジット売掛金）の期末残高に対し、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。
2. 退職給付費用については、¥2,000を4月から2月までの11か月間に毎月見積計上しているため、3月分についても同額を計上する。
3. 売買目的有価証券の内訳は以下のとおりである。時価法による評価替えを行う。

	帳簿価額	時 価
A社株式	¥ 265,000	¥ 260,000
B社株式	¥ 120,000	¥ 122,000

4. 期末商品棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価は仕入の行で計算し、棚卸減耗損および商品評価損はともに売上原価に算入する。

帳簿棚卸高	帳簿棚卸数量	380個	原 価	@¥400
実地棚卸高	実地棚卸数量	365個	正味売却価額	@¥380

5. 固定資産の減価償却を次のとおり行う。なお、期中取得の建物については、既存の建物と同様の条件で月割償却を行う。

建 物：定額法、耐用年数は30年、残存価額は取得原価の10%  
備 品：定率法、償却率は年25%

6. 保険料のうち¥12,000は当期に引き渡しを受けた建物につき、引き渡しと同時に保険に加入し、¥2,400を10月から2月までの5か月間に毎月見積計上したものである。よって、3月分についても同額を計上する。なお、当該保険料については1年分を後払いしている。

7. 借入金は×19年10月1日に以下の条件で借り入れたものである。支払利息については、¥1,000を10月から2月までの5か月間に毎月見積計上しているため、3月分についても同額を計上する。

期間：5年

年利：3%

利払日：毎年9月末の年1回

第4問 (28点)

(1) (12点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当月の材料副費の実際発生額は1,450,000円であったので材料副費予定配賦額1,320,000円との差額を材料副費差異勘定に振り替える。

- ア. 材料副費差異    イ. 材料副費    ウ. 仕掛品    エ. 材料    オ. 製造間接費    カ. 製品  
キ. 材料消費数量差異

2. 当社では標準原価計算を採用しておりシングル・プランにより記帳している。製品1個当たりの標準直接労務費は4,500円であり、当月の生産実績は月初仕掛品200個（加工進捗度50%）、当月投入量1,200個、月末仕掛品400個（60%）、完成品1,000個であった。なお、当月の実際直接労務費は5,150,000円であった。直接労務費の当月消費額に関する仕訳を示しなさい。

- ア. 製品    イ. 製造間接費    ウ. 賃金・給料    エ. 仕掛品    オ. 売上原価    カ. 売上    キ. 賃率差異

3. 当月の製造間接費配賦差異を原価差異勘定に振り替えた。なお、当月の製造間接費予定配賦額は4,200,000円、当月の製造間接費実際発生額合計は4,350,000円であった。

- ア. 仕掛品    イ. 買掛金    ウ. 製造間接費    エ. 製品    オ. 売上原価    カ. 売上    キ. 原価差異

(2) (16点)

当工場は単一製品Yをロット生産しており、実際単純総合原価計算を採用している。次の[資料]にもとづいて、答案用紙の各勘定を完成させなさい。

[資料]

1. 当月の生産実績は次のとおりであり、( )内の数値は加工進捗度を示している。主要材料は工程の始点で投入され、買入部品は工程の進捗度0.5の点で投入している。なお、月末仕掛品の計算は先入先出法を用いている。また、月初仕掛品有高は864,000円であり、このうち直接材料費は556,200円、加工費は307,800円であった。

月初仕掛品量：375個 (0.4)      当月製品完成量：1,200個      月末仕掛品量：300個 (0.5)

2. 加工費は直接工の直接作業時間を配賦基準として予定配賦（正常配賦）しており、加工費年間予定額は31,104,000円、年間予定直接作業時間は36,000時間である。なお、当月の実際直接作業時間は2,700時間であった。

3. 当月の実際原価は、次のとおりであった。

減価償却費……………594,000円	福利厚生費…………… 39,600円	主要材料費…………… 1,512,000円
機械燃料費…………… 63,000円 ✓	直接賃金…………… 748,800円 ✓	光熱費…………… 45,000円
工場職員給料……………239,400円	外注加工費…………… 86,400円 ✓	工場消耗品費…………… 32,400円 ✓
特許権使用料……………162,000円	材料棚卸減耗費…………… 5,400円 ✓	法定福利費…………… 27,000円
補修用鋼材費……………115,200円 ✓	買入部品費……………1,458,000円	間接工賃金……………271,800円

第5問 (12点)

米菓を製造・販売するニッショウ製菓では、これまで全部原価計算による損益計算書のみを作成してきたが、製品Aの月間利益計画を作成するため、直接原価計算による損益計算書を作成することとした。製品Aの販売価格は1kg当たり1,500円を予定している。次の[資料]にもとづいて、その下の[会話文]の(ア)と(イ)に入るもっとも適切な語を選んで○で囲みなさい。また、(①)～(⑥)に入る金額を計算しなさい。

[資料]

- (1) 製品A 1kg当たり全部製造原価  
直接材料費 600円/kg 変動加工費 210円/kg  
固定加工費 月額 1,260,000円 (全部原価計算では月間生産量をもとに配賦率を算定する)
- (2) 販売費及び一般管理費  
変動販売費 120円/kg  
固定販売費及び一般管理費 月額 678,000円
- (3) 月間生産・販売計画 (仕掛品は存在しない)  
月初在庫量 0kg 月間販売量 4,000kg  
月間生産量 4,000kg 月末在庫量 0kg

[会話文]

社長：全部原価計算と違って、直接原価計算では、売上高から変動費を差し引いて(ア)利益が出てくるわけですね。

経理部長：そうです。月間生産・販売量を4,000kgとする現在の計画では、月間(ア)利益は(①)円になります。仮に、月間生産・販売量を5,000kgとすると、月間(ア)利益は(②)円になります。

社長：なるほど。(ア)利益は売上高に(イ)変化するわけですね。

経理部長：そうです。次に、(ア)利益から固定費を差し引いて営業利益を出します。月間生産・販売量を4,000kgとする現在の計画では、月間営業利益は(③)円になります。

社長：月間営業利益がマイナスにならないようにするためには、月間売上高はいくら必要になりますか。

経理部長：損益分岐点ですね。損益分岐点の月間売上高は(④)円です。

社長：わかりました。この月間売上高は上回らないといけませんね。ところで、直接原価計算の営業利益は全部原価計算の営業利益と同じ金額になるのですか。

経理部長：現在の計画ではそうですが、生産量と販売量が一致しないときは同じ金額にはなりません。仮に、月間生産量だけを5,000kgに増やし、月間販売量は4,000kgのまま変わらないとします。直接原価計算では、月間営業利益は(⑤)円ですが、全部原価計算では、月間営業利益は(⑥)円になります。

社長：販売量が変わらないのに、生産量だけを増やして利益が増えるのはおかしいですね。

経理部長：そのとおりです。直接原価計算のほうが利益計画に適しているといえるでしょう。

まるっと完全予想問題集  
第2回 答案用紙

総合点

採点欄
第1問

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

2 級 ①

商業簿記

第1問 (20点)

	借方		貸方	
	記号	金額	記号	金額
1	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
2	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
3	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
4	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
5	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	

受験番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

採	点	欄
第		
2		
問		

第2問 (20点)

問1	¥	評価益相当 ・ 評価損相当
問2	¥	売却益相当 ・ 売却損相当
問3	¥	借方残高 ・ 貸方残高
問4		投資有価証券
	¥	関係会社株式
問5		投資有価証券
	¥	関係会社株式





受験番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

採 点 欄
第 4 問

第4問 (28点)

(1) (12点)

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
1	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
2	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	
3	( )		( )	
	( )		( )	
	( )		( )	

(2) (16点)

加 工 費

(単位：円)

間 接 材 料 費 ( )	予 定 配 賦 額 ( )
直 接 労 務 費 ( )	原 価 差 異 ( )
間 接 労 務 費 ( )	/
直 接 経 費 ( )	
間 接 経 費 ( )	
( )	
( )	( )

仕 掛 品

(単位：円)

月 初 有 高 ( )	当 月 完 成 高 ( )
直 接 材 料 費 ( )	月 末 有 高 ( )
加 工 費 ( )	/
( )	
( )	( )

まるっと完全予想問題集  
第2回 答案用紙

採点欄	
第5問	

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

2 級 ⑤

工業簿記

第5問 (12点)

ア	売上総	・	貢献	・	経常
①					
②					
イ	比例して	・	反比例して	・	関係なく
③					
④					
⑤					
⑥					